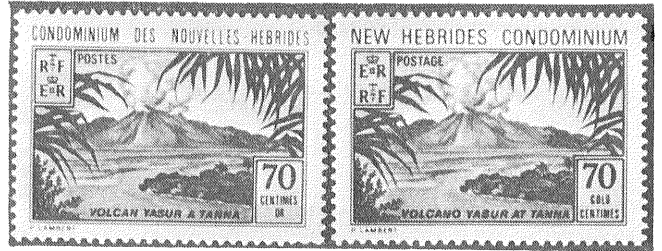


地学と切手

P Q.

ニューヘブリジーズの
ヤスール火山切手



ニューヘブリジーズは南太平洋 ニューカレドニア北西方にある火山列島で 大小数10の島々からなり 大きく北・中央・南ニューヘブリジーズ諸島に分けられる。総面積は約19,000 km²人口約10万人で 首都はエフェート島のピラである。この島は1774年キャプテン・クックが最初に上陸したが 現在はイギリスとフランスの共同統治となっており 切手はまったく同じ図案が英仏両方の表現で記され 切手の価格は双方の通貨で表わされる。

ヤスール火山は南ニューヘブリジーズ諸島のタンナ島に位置する。 海拔 350m であるが 火山は古い火山体の東縁にあり これは海底から3,500—4,000mの高さを有している。 頂上近

くの斜面は放出された火山弾やスコリアによって覆われ 火口は直径 400 m 深さ80である。 旧火山との間は恐らくカルデラ底であり 湖がある。 噴気口や硫気孔が山腹や旧火山の東側にあり 温泉が海岸にあって小間欠泉もみられる。

ヤスール火山は山頂の火口内にある溶岩湖からの噴火が 最初の発見以来続いている。 通常火山灰・火山弾が20m以内時には 100mの高さまで空中に噴き上げられ これらは山腹に覆う。

溶岩は中性長石と普通輝石を含む安山岩で 分析値が4コ報告されているが アルカリとアルミナが比較的多い SiO₂ 55% 前後の値を示している。

ニカラグアのもモトンボ火山

もモトンボ火山はニカラグアの首都マグアナの北にあり 海拔 1,258m と低い火山であるが 首都の近くにあること その対称的な美しい形で国民に親しまれ ニカラグアの切手の題材であることも多い。

この火山は16世紀の初めから噴煙を上げていたことが探検家によって報告され その後も17世紀と18世紀に1度づつ噴火した。 19世紀に数回の噴火がくり返され1905年には最大の噴火があった。 山頂の北に開いた火口から流れ出た溶岩流は 北東と北西に向かって山麓に達し その後現在まで噴気がつづいて

いる。

岩石は玄武岩で 東には広くデイサイトの軽石が分布する。

切手は 1934年に発行された航空加刷切手と 1974年にそれをデザインした切手発行100年記念切手である。 他の1枚は1977年リンドバーク大西洋単独横断50周年切手の中で マグアナに向う途中のもモトンボ火山上空のスピリット オブ セントルイス号で 原色では右上の火口が真赤になっている。

